

需給調整・経営安定対策の現状

平成 1 6 年 5 月 2 5 日

農 林 水 産 省

目 次

1	需給調整・経営安定対策の創設	1
	(1) 制度創設時の基本的考え方	1
	(2) 制度の創設	1
2	需給調整・経営安定対策の概要	2
	(1) 需給調整対策	2
	(2) 経営安定対策	3
3	需給調整対策の現状	4
	(1) 対策の推進状況	4
	ア 13年産	4
	イ 14年産	4
	ウ 15年産	5
	(2) 価格動向	9
	ア 13年産	9
	イ 14年産	11
	ウ 15年産	13
4	経営安定対策の現状	17
	(1) 13年産	17
	(2) 14年産	17
	(3) 15年産	18

1 需給調整・経営安定対策の創設

(1) 制度創設時の基本的な考え方

平成13年度に需給調整・経営安定対策を創設するに当たり、果樹農業の現状を次のようにとらえていた。

- ① 果樹農家の高齢化・減少に伴う生産管理の不徹底等を背景に、各年ごとの生産量・品質の変動が増加傾向にあったことから、需給のアンバランスが顕在化しやすく、果樹経営が安定しない。
- ② 各年ごとの生産量の変動による生産過剰分について国産果実の需要増が見込めない。
- ③ 加工品の輸入増加や消費者の嗜好の変化等に伴い、国産果実の加工仕向量が減少し、これを通じた需給調整がこれまでのように機能しない。

(2) 制度の創設

(1)の現状を踏まえ、平成12年11月30日に「今後の果樹対策」を取りまとめ、うんしゅうみかん及びりんごについて、平成13年度から従来の加工原料用果実価格安定制度を転換し、

- ① 産地・生産者による計画的生産・出荷によって供給量の調整をより確実に実施し、価格及び需給の安定を図る需給調整対策
- ② 需給調整の的確な実施を前提として、なお価格が大きく低下した場合に、意欲ある産地・生産者の果樹経営への影響を緩和し、経営の安定を図る経営安定対策

を創設した。

○ 「今後の果樹対策について」（平成12年11月30日）

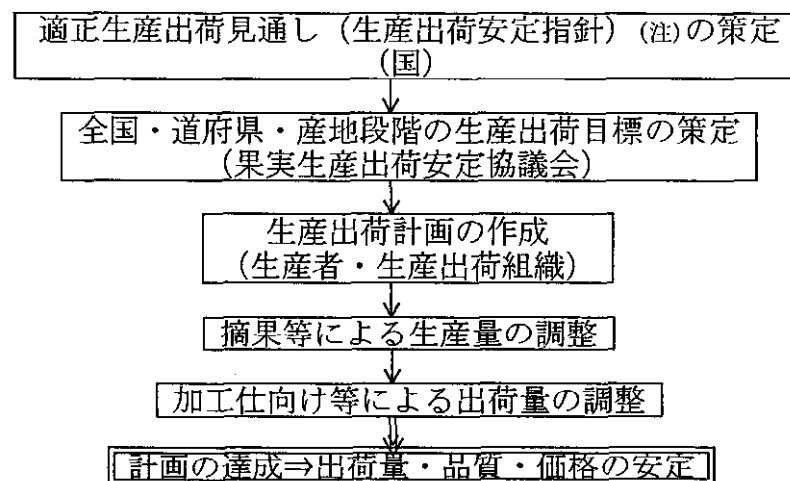
- 1 基本的考え方
 - ・ うんしゅうみかん及びりんごについて、従来の加工原料用果実価格安定制度から需給調整・経営安定対策へ転換するとともに、所要の関連対策を実施。
- 2 需給調整対策
 - ・ 生産量と品質の変動を抑制し、価格の安定を図るために、需給調整対策を強化。
- 3 経営安定対策
 - ・ 価格が大きく低下した場合に、育成すべき果樹経営者の経営に与える影響を緩和するために、経営安定対策を創設。
 - ・ 2年ごとに本対策の運用状況について、適切な評価と必要に応じ制度の仕組み等について見直し。
- 4 関連対策
 - ・ 生産流通の低コスト化、需要拡大を推進するため、生産流通対策、需要拡大対策を推進。

2 需給調整・経営安定対策の概要

(1) 需給調整対策

- 国は、毎年、需給動向を踏まえ、食料・農業・農村政策審議会の意見を聴いて、適正生産出荷見通しを示すこととしている。
- その際、大幅な生産増加が見込まれる場合には、適正生産出荷見通しに代えて、うんしゅうみかんについては、果樹農業振興特別措置法に基づき、農林水産大臣が生産出荷安定指針（りんごについては生産出荷指導指針）を策定することとしている。
- 見通し（指針）の策定を受け、生産者団体等からなる全国、道府県、産地の各段階の果実生産出荷安定協議会等は、道府県別、産地別、生産者・生産出荷組織別の生産出荷目標を策定することとしている。
- 一方、生産者・生産出荷組織は、その目標に即し予定される生産出荷量及びそのための調整方法を盛り込んだ生産出荷計画を作成することとしている。
- 指針が策定された場合には、生産量の調整効果が高い全摘果等の特別摘果により、生産量の調整に最優先に取り組み、需給調整を強化することとしている。

○需給調整対策の流れ



（注）生産出荷安定指針は、予想生産量が全国の適正生産量の原則として10%以上上回る場合に策定。

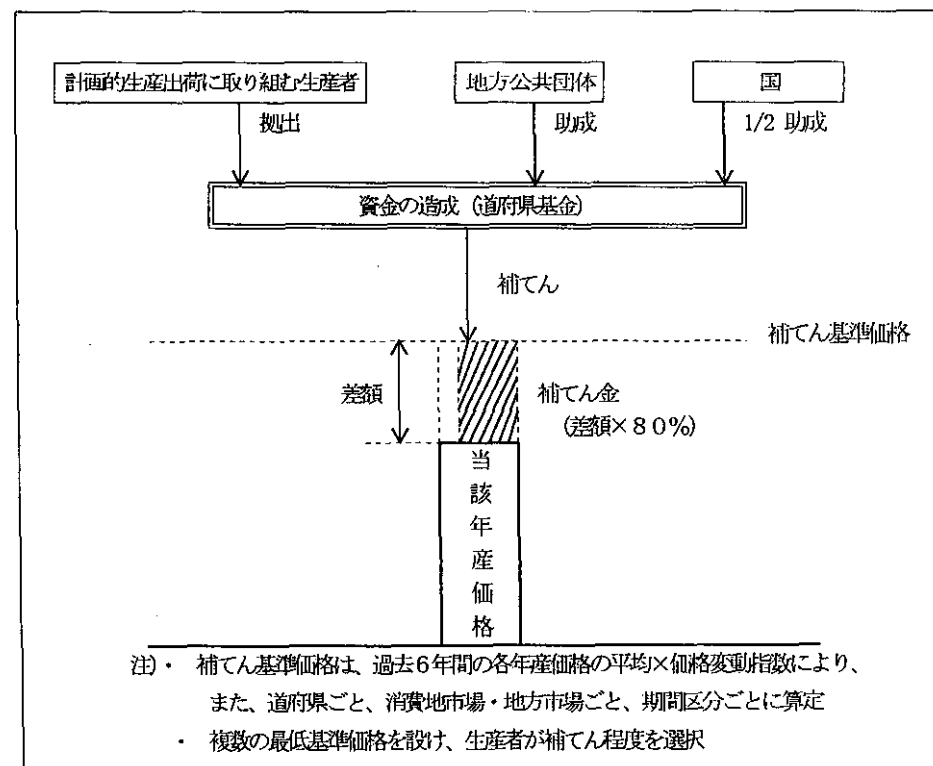
○うんしゅうみかんの特別摘果の内容

改植・高接	うんしゅうみかんからうんしゅうみかんの優良品種その他果実への改植又は高接
全摘果	園地、樹又は半樹ごとに全く結実させないようにさせるためのせん定又は摘果
間伐・大枝切り	園地ごとに一定面積以上の樹を伐採する間伐又は樹の主枝を一定割合以上切除する大枝切り

(2) 経営安定対策

- 需給調整対策の取組が行われた場合においてもなお価格が大きく変動した時に、育成すべき果樹生産者の経営安定を図るため、平成13年度から経営安定対策を実施している。
- 本対策に必要な資金は、生産者の拠出と地方公共団体及び国の助成金等により造成している。
- 本対策においては、道府県平均で当該年産価格が補てん基準価格を下回った場合には、その差額の8割を補てんすることとしている。この場合、産地・生産者が計画的生産出荷を的確に実施していることが交付の条件となっている。

○ 経営安定対策の仕組み



3 需給調整対策の現状

(1) 対策の推進状況

ア 13年産

- うんしゅうみかんについては、春先に大幅な生産増加が見込まれたことから、生産出荷安定指針を策定し、需給調整を強化するとともに、りんごについては、適正生産出荷見通しを策定した。
- 生産現場においては、関係者が一丸となって、特別摘果等による生産量の調整を最優先に取り組んだ。
- このような取組により、うんしゅうみかんの収穫量は、128万トン（生産目標量に対し102%）、りんごの収穫量は、93万トン（同102%）と計画に近い水準となった。

イ 14年産

- うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加は見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。
- うんしゅうみかんの生産量は113万トンで、適正生産量を2万トン下回り、また、出荷量は99万6千トンで、適正出荷量を2万9千トン下回り、計画的な生産出荷が行われた。
- りんごは、生産量が92万6千トンで、適正生産量を3万6千トン上回ったものの、出荷量は80万9千トンで、適正出荷量を9千トン上回り、計画に近い水準の生産出荷が行われた。

- 13年産うんしゅうみかん及びりんごの適正生産出荷見通し

うんしゅうみかん	生産目標量	125万トン※
りんご	適正生産量	91万トン

※ うんしゅうみかんについては、大幅な生産増加が見込まれたことから、適正生産出荷見通しに代えて、生産出荷安定指針を策定。

- 13年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
13年産実績(a)	128万t	113万t	93万t	83万t
適正生産出荷量(b)	125万t	111万t	91万t	82万t
比率(a/b×100)	102%	102%	102%	101%

資料：果樹生産出荷統計等

- 14年産うんしゅうみかん及びりんごの適正生産出荷見通し

うんしゅうみかん	適正生産量	115万トン
りんご	適正生産量	89万トン

- 14年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
14年産実績(a)	113万t	99.6万t	92.6万t	80.9万t
適正生産出荷量(b)	115万t	102.5万t	89万t	80万t
比率(a/b×100)	98%	97%	104%	101%

資料：果樹生産出荷統計等

ウ 15年産

① うんしゅうみかん

○ 15年産のうんしゅうみかんは、おもて年となっており、過剰生産が懸念されることから、果樹農業振興特別措置法に基づき、食料・農業・農村政策審議会への諮問・答申を受け、「生産出荷安定指針」を平成15年5月28日に策定した。

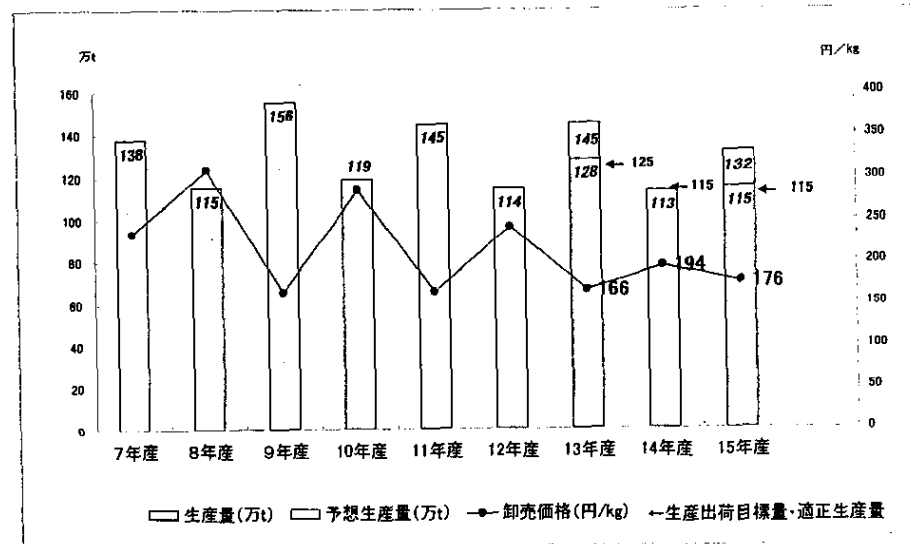
○ 本指針に基づき、平成15年6月6日に全国果実生産出荷安定協議会において全国生産出荷目標が策定され、府県別の生産出荷目標が決定された。

これを受け、府県・産地段階で生産出荷目標が策定され、産地において、隔年結果の是正及び生産量の調整効果が高い全摘果の推進等計画的な生産出荷の取組が行われた。

○ 15年産うんしゅうみかん生産出荷安定指針

予想生産量	130～134 万トン
生産目標量	115 万トン
出荷目標量	102.5 万トン
生食用	86 万トン
加工原料用	16.5 万トン

○ うんしゅうみかんの生産量と卸売価格の推移



注：卸売価格は、1,2類都市市場の平均卸売価格（6月～翌5月）。15年産は、16年3月までの価格。
資料：果樹生産出荷統計、青果物卸売市場調査

- 産地では、適正生産量の達成に向けて、特別摘果を推進するとともに、収穫期までに仕上げ摘果、樹上選果を推進する等計画的な生産出荷に取り組んだ。

○県の実施事例

- ・産地ごとに生産出荷体制の現状分析を行い、体制の再構築に向けたアクションプログラムを策定し、計画的生産出荷を実現するため、対策の進捗状況を県をあげて確認。

○産地の実施事例

- ・摘果推進ののぼりの設置、ファックスによる生産者への通知、有線放送による広報により、計画生産を推進。
- ・管内各支部で夏期せん定講習会を実施、樹別交互結実法と均一安定生産技術の普及を推進。
- ・基盤整備とあわせて、計画的な改植を推進。
- ・作業等の経費の補助を行い摘果を推進。
- ・相互査察の実施や調査キャラバン隊による園地点検の実施。

- うんしゅうみかんは、特別摘果等の計画生産の取り組みが推進されたことに加え、極早生種を中心に8月中旬以降の高温・少雨により果実の肥大が進まず、また、9月以降の日焼け果等の発生により、うんしゅうみかんの生産量は、適正生産量115万トンを下回った114万7千トンとなった。

○ うんしゅうみかんの生産量・出荷量

	生産量	出荷量
15年産(a)	114.7万 t	101.4万 t
適正生産出荷量(b)	115 万 t	102.5万 t
比率(a/b×100)	100%	99%

資料：平成15年産みかんの収穫量及び出荷量（統計部）等

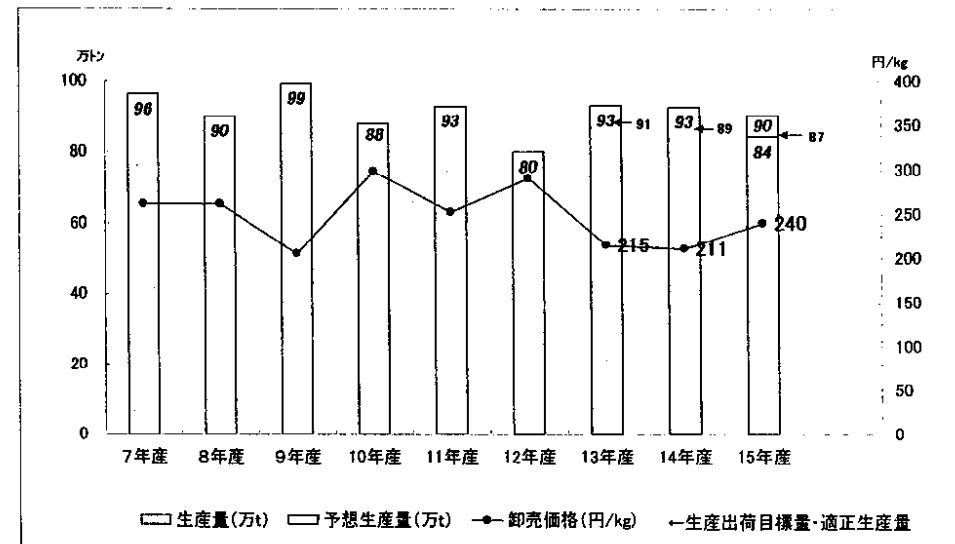
② りんご

- 食料・農業・農村政策審議会の意見を踏まえ、「適正生産出荷見通し」を平成15年5月28日に策定した。
- 本見通しに基づき、平成15年6月4日に全国果実生産出荷安定協議会において全国生産出荷目標が策定され、道県別の生産出荷目標が決定された。
これを受け、道県・産地段階で生産出荷目標が策定され、産地において、適正な着果量を確保するため、摘果の推進等の計画的な生産出荷の取組が行われた。

- 15年産りんご適正生産出荷見通し

予想生産量	90	万トン程度
適正生産量	87	万トン
適正出荷量	78	万トン
生食用	63.5	万トン
加工原料用	14.5	万トン

- りんごの生産量と卸売価格の推移



注：卸売価格は、1,2大都市市場の平均卸売価格（8月～翌7月）。15年産は、16年3月までの価格。
資料：果樹生産出荷統計、青果物卸売市場調査

- 産地では、高品質果実の生産のため、摘果、仕上げ摘果、樹上選果を推進した。特に、主産県の青森県では、「りんご適正着果量確保推進運動」を全県的に展開し、収穫期まで良品生産のための摘果を推進した。

○県の取組事例

- ・青森県では、全県をあげて、「りんご適正着果量確保推進運動」を展開し、適正着果ののぼりの設置やチラシの配付による啓発、「適正着果量確保推進期間」（～7月中旬）、「適正着果量見直し強化期間」（7月中旬～8月中旬）、「樹上選果推進期間」（8月下旬～）の3期間に分けて運動を重点的に実施。

○産地の取組事例

- ・N県で既に導入されているイエローカード制度を採用、摘果が不十分な園地に、必要な摘果の程度を明記したイエローカードを提示し、生産者に速やかな摘果を指導。
- ・大玉生産の目安として「樹上選果板」を作成、配布。

- 各産地では、高品質果実の生産のための仕上げ摘果や樹上摘果により、ほぼ計画に近い水準の生産出荷が見込まれていたが、その後、主産県の青森県で台風等の気象災害による落果や傷果の発生により、りんごの生産量は、適正生産量87万トンの97%の84万2千トンとなった。

○ りんごの生産量・出荷量

	生産量	出荷量
15年産(a)	84.2万 t	74.7万 t
適正生産出荷量(b)	87.0万 t	78.0万 t
比率(a/b×100)	97%	96%

資料：平成15年産りんごの収穫量及び出荷量（統計部）

(2) 価格動向

ア 13年産

① うんしゅうみかん

○ 13年産うんしゅうみかんの卸売数量は、うら年であった前年を大きく上回り、9月から3月までの卸売数量は前年に比べ121%となった。

○ 卸売価格は、低水準で推移してきたが、その要因としては、

- ① 卸売数量が前年を大きく上回ったこと、
- ② 好天により出荷が早まらざるを得なくなったこと、
また、地方市場の不振により、大都市市場の入荷量が増加したこと、
- ③ 景気の悪化、特に個人消費の悪化に伴い、生鮮食料品全般の売れゆきが悪化したこと、
- ④ このため、卸売価格についても青果物全般について低迷したこと。
等が考えられる。

○京浜市場におけるうんしゅうみかんの卸売数量と価格の推移

(単位:t、円/kg、%)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	13年産	4,540	31,865	47,626	69,303	26,775	19,571	6,170	205,850
	12年産	3,358	28,358	39,534	59,274	22,443	12,520	4,044	169,531
	対前年比	135	112	120	117	119	156	153	121
卸売価格	13年産	187	180	144	141	150	161	171	153
	12年産	238	170	220	239	268	276	241	230
	対前年比	79	106	65	59	56	58	71	67

資料:日園連調べ

○露地みかんの出荷実績

	9、11年平均	13年産	対9、11年平均比
4大市場	400千t	392千t	98%
うち京浜	202千t	206千t	102%
地方市場	220千t	205千t	93%

注:1) 9月～翌年3月までの販売実績

2) 4大市場は、京浜、京浜衛星、京阪神、名古屋

資料:柑橘販売年報(日園連)

○食料品販売額の前年同月比(チェーンストア販売統計)

(単位:%)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食料品	▲2.5	▲5.6	▲1.7	▲1.9	▲0.7	▲2.2	1.2
うち生鮮品	▲5.4	▲7.9	▲5.8	▲6.6	▲0.3	▲2.2	▲3.7

注:数値は既存店ベース

資料:チェーンストア販売統計

② りんご

○ 13年産りんごの卸売数量は、夏期の高温小雨のため生産量が例年より少ない前年を大きく上回り、8月から4月までの卸売数量は前年に比べ125%となった。

○ 卸売価格は、低水準で推移してきたが、その要因としては、

- ① 卸売数量が前年を大きく上回ったこと、
- ② ふじの貯蔵性により出荷が早まらざるを得なくなったこと、また、地方市場の不振により、大都市市場の入荷量が増加したこと、
- ③ 景気の悪化、特に個人消費の悪化に伴い、生鮮食料品全般の売れゆきが悪化したこと、
- ④ このため、卸売価格についても青果物全般について低迷したこと、
等が考えられる。

○京浜市場におけるりんごの卸売数量と価格の推移

(単位:t、円/kg、%)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	累計
卸売数量	13年産	2,976	9,099	11,730	12,123	9,573	8,082	9,109	9,502	7,954	80,148
	12年産	2,637	7,877	10,018	10,297	7,469	6,402	6,657	7,132	5,840	64,329
	対前年比	113	116	117	118	128	126	137	133	136	125
卸売価格	13年産	346	293	268	231	196	176	166	178	201	221
	12年産	343	264	272	278	301	294	298	294	307	289
	対前年比	101	111	99	83	65	60	56	61	65	77

資料:日園連調べ

○りんご(ふじ)の出荷実績

	9、11年平均	13年産	対9、11年平均比
1 類都市市場	88千t	97千t	110%
うち京浜	36千t	38千t	107%
2 類都市市場	83千t	83千t	100%

注:1) 10月～翌年3月までの販売実績

2) 1 類都市市場は、人口100万人以上の都市等の市場、2 類市場は、1 類都市市場を除く、人口20万人以上の都市の市場

資料:青果物卸売市場調査報告等

○食料品販売額の前年同月比(チェーンストア販売統計)

(単位:%)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食料品	▲2.5	▲5.6	▲1.7	▲1.9	▲0.7	▲2.2	1.2
うち生鮮品	▲5.4	▲7.9	▲5.8	▲6.6	▲0.3	▲2.2	▲3.7

注:数値は既存店ベース

資料:チェーンストア販売統計

イ 14年産

① うんしゅうみかん

○ 14年産うんしゅうみかんの卸売数量は、10月まではほぼ前年並みであったが、11月に入り減少し、9月から3月までの卸売数量は前年に比べ83%となった。

○ 卸売価格については、10月に昨年比の92%と低下したが、11月以降、卸売数量が前年より減少したことにより、前年を上回って推移した。しかし、1月以降、卸売価格は大きく低下した。この要因としては、

- ① 極早生みかんの出荷量がおもて年並みであったこと、
- ② 果実の糖は高かったが、酸抜けが悪く、酸高の果実を消費者が敬遠したこと、
- ③ 果実の酸が高く、生産者が酸を減少させるまで出荷を遅らせたため、年末に出荷が集中し、1月に過剰な在庫を抱えたこと、
等が考えられる。

○京浜市場におけるうんしゅうみかんの卸売数量と価格の推移

(単位:t、円/kg、%)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	14年産	4,652	30,691	38,200	53,751	21,513	16,688	6,253	171,748
	13年産	4,540	31,865	47,626	69,303	26,775	19,571	6,170	205,850
	対前年比	102	96	80	78	80	85	101	83
卸売価格	14年産	246	166	196	202	170	177	191	189
	13年産	187	180	144	141	150	161	171	153
	対前年比	132	92	136	143	113	110	112	123

資料:日園連調べ

○露地みかんの酸度

単位: %

	11月5日	12月5日	12月25日
14年産	1.17	1.00	0.99
13年産	0.79	0.70	0.69
過去10年平均	0.83	0.77	0.85

資料:日園連調べ

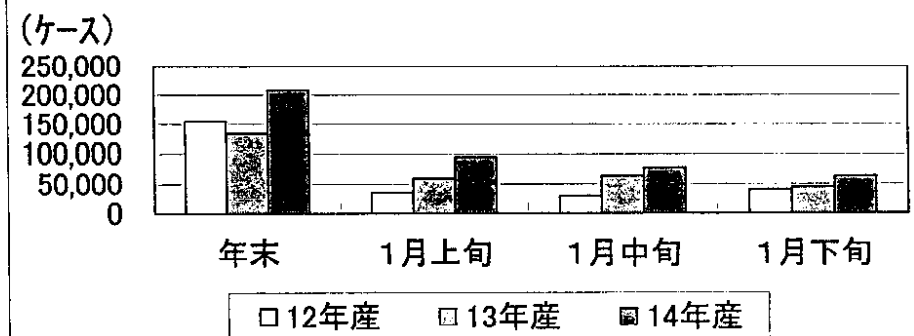
○京浜市場における年末販売量

単位: t

	12月中旬	12月下旬
14年産	17,782	25,772
12年産	20,651	22,713

資料:日園連調べ

○東京都中央卸売市場内卸売会社A社の残荷量



② りんご

○ 14年産りんごの卸売数量は、8月は前年より2割程度上回ったものの、9月以降は前年並みに推移した。

○ 卸売価格は、9月に昨年比の71%まで低下し、11月以降、やや回復したものの、依然として低い水準で推移した。この要因としては、例年より開花期が異常に早いこともあり、

- ① 早生種の「つがる」で果肉の軟質化による品質の低下等の影響を受けたこと、
 - ② 果実の肥大が早く、出荷時期が前進したため、特定の時期に出荷が集中したこと、
 - ③ 晩生種の「ふじ」での実われ果の発生、更に流通段階で果肉に褐変が発生したこと、
- 等が考えられる。

○京浜市場におけるりんごの卸売数量と価格の推移

(単位:t、円/kg、%)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	累計
卸売数量	14年産	3,577	8,799	11,742	12,471	8,829	7,479	8,611	8,854	7,217	77,580
	13年産	2,976	9,099	11,730	12,123	9,573	8,082	9,109	9,502	7,954	80,148
	対前年比	120	97	100	103	92	93	95	93	91	97
卸売価格	14年産	308	208	223	210	187	181	182	193	224	207
	13年産	346	293	268	231	196	176	166	178	201	221
	対前年比	89	71	83	91	95	103	110	108	111	94

資料:日園連調べ

○京浜市場におけるふじの出荷実績

単位:t、%

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
青森県	14年産	439	2,031	2,837	4,610	5,977	6,632	22,526
	13年産	237	1,042	2,564	4,658	6,301	7,247	22,049
	対前年比	185	195	111	99	95	92	102
長野県	14年産	599	2,724	1,602	252	102	85	5,364
	13年産	322	2,469	1,756	310	176	119	5,152
	対前年比	186	110	91	81	58	72	104
全国	14年産	1,366	8,534	7,383	5,971	6,751	6,837	36,842
	13年産	931	7,811	7,927	6,480	7,439	7,530	38,118
	対前年比	147	109	93	92	91	91	97

資料:日園連調べ

○平成14年産りんごの開花日

	青 森 県		長 野 県	
	つがる	ふ じ	つがる	ふ じ
14年産	4月24日	4月24日	4月17日	4月17日
平 年 差	15日早い	16日早い	12日早い	13日早い

資料:果樹花き課調べ

○平成14年産りんごの品質低下に関する流通関係者からの聞き取り

- ・つる割れりんごが多かった (大手量販店)。
- ・熟度が進んだりんごは冷蔵ケースでの販売となり、売り場面積を縮小した (大手量販店)。
- ・つる割れ果、着色不良果が多かった (仲卸会社)。
- ・開花が早く、果肉先行、日持ちが悪かった (卸売会社)。

資料:果樹花き課調べ

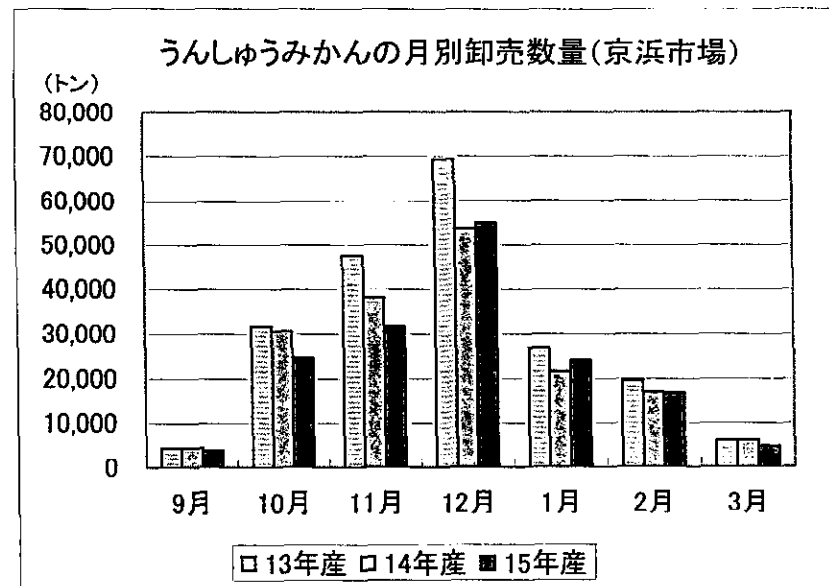
ウ 15年産

① うんしゅうみかん

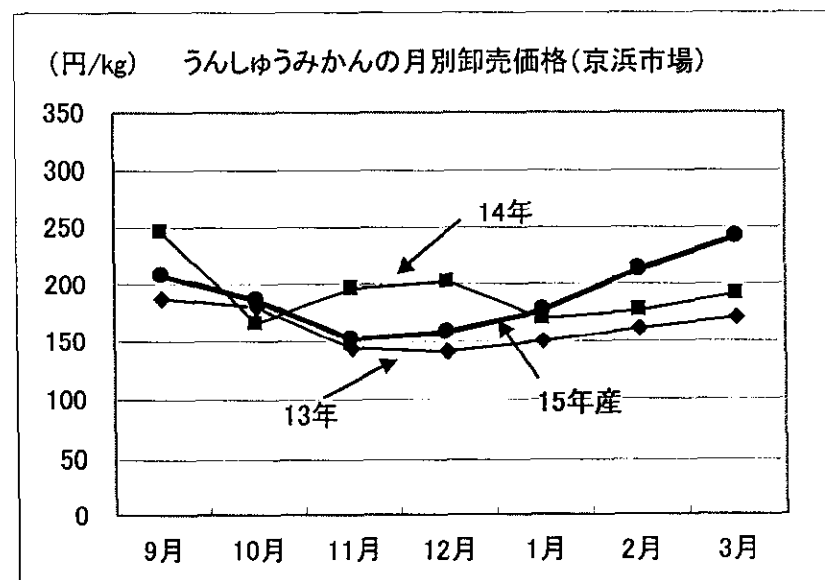
○ 15年産うんしゅうみかんの卸売数量は、10月出荷の極早生種が小玉傾向で、また、日焼け果等を樹上選果したため、11月までの出荷量は、前年に比べ8割程度となったが、12月、1月の出荷量は前年を若干上回り、3月までの出荷量は前年の9割程度となっている。

○ 一方、卸売価格は、卸売数量が前年を大きく下回ったこと等から、10月は前年比112%となったが、11月、12月の卸売価格は低下し、前年比の8割程度となった。

しかし、12月中旬以降、普通みかんが出荷され、主産県の果実の品質が良いこともあり、価格は前年並みに回復し、年明け以降は前年を上回っていることから、3月までの累計では、対前年比の94%となっている。



資料：日園連調べ



資料：日園連調べ

- 11月に卸売価格が低下した要因としては、
- ① 果実が小玉傾向で、平均価格を押し下げたこと、
 - ② 夏の天候が多雨、寡照で極早生、早生みかんの糖度が低かったこと、
 - ③ 早生みかんが出荷されたが、主産地の高温多雨により果実の体質が弱く、腐敗果や棚持ちの悪い果実が発生したこと、
 - ④ 消費地が高温でかつ天候が悪く、購買行動がさらに鈍ったこと、
 - ⑤ 消費者の食料消費支出が低下しており、量販店でも生鮮品の販売額が大きく前年を割り込む状況が続いていること、
- 等が考えられる。

○ 1世帯あたりの食料消費支出額（全世帯）

	12年	13年	14年	15年
8月	86,465 円	84,299 円	84,645 円	82,059 円
9月	76,864 円	75,627 円	75,494 円	73,118 円
10月	79,332 円	76,372 円	75,494 円	75,233 円
11月	76,566 円	74,751 円	75,089 円	73,966 円

資料：家計調査年報

○ 15年産露地みかんの階級比率（S県：11/27までの出荷）

単位：%

	2L	L	M	S	2S
平成15年産	4	18	43	33	2
平成14年産	10	26	40	23	1

資料：日園連調べ

○ 大田市場における露地みかんの糖度

	平成15年産	平成14年産
10月15日	10.3度	11.2度
10月25日	10.8度	11.4度
11月 5日	11.2度	12.9度
11月15日	11.0度	12.9度
11月25日	11.4度	12.6度

資料：日園連調べ

○ みかん主産地における11月の天候

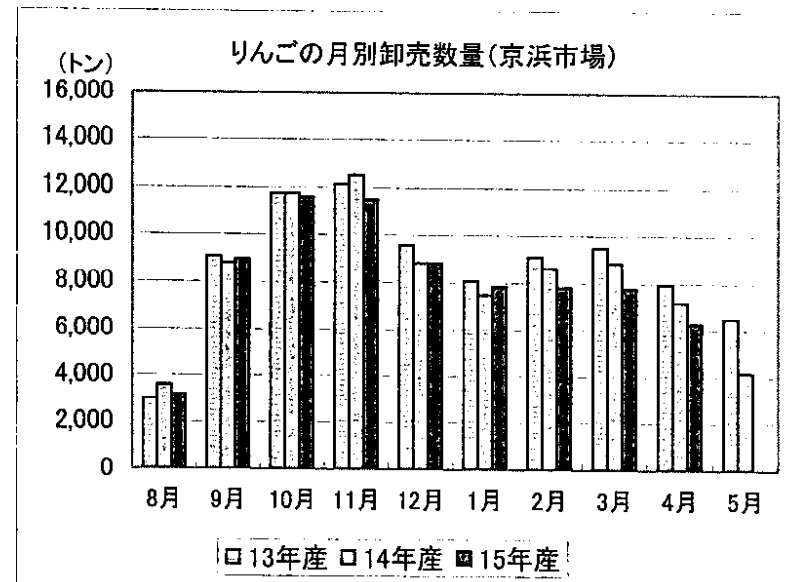
	平均気温			降水量			観測開始年
		平年差	これまでの最高		平年比	これまでの最高	
松山	15.3℃	+2.3℃	14.6℃	155.5mm	248%	143.4mm	1890
熊本	16.3℃	+3.6℃	15.2℃	193.5mm	271%	192.0mm	1891

○ 11月上旬の東京の天候

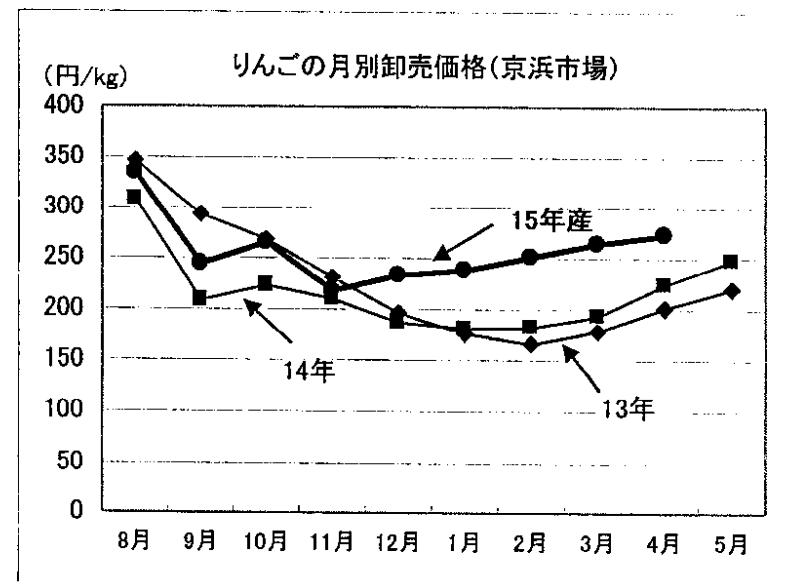
	平成15年	対平年比(差)
日照時間	19.9時間	43%
平均気温	17.2℃	+2.4℃
降水量	58.5mm	186%

② りんご

- 15年産りんごの卸売数量は、冷夏等の影響による早生りんごの生育の遅れ等から、8月は前年比89%となったが、9月、10月は前年並みで、11月は前年比の92%、1月には前年を上回り、4月までの累計で対前年比の95%となっている。
- 卸売価格は、10月までは前年よりかなり高めに推移したが、11月に入り、やや低下した。
12月以降、卸売価格が再び上昇し、年明け以降も前年を大きく上回っていることから、4月までの累計で対前年比の121%となっている。



資料：日園連調べ



資料：日園連調べ

○ 10月までの卸売価格は、8月は卸売数量が前年を下回ったこと、その後、早生種「つがる」で、山形から長野、青森への産地間リレーが順調に進んだこと、それ以降もジョナゴールド等の中生種への切り替えが順調に進んだこと等から、前年よりかなり高めに推移した。

- 11月に入り、卸売数量が少ないものの、
- ① 山形県産ふじが前進出荷されたこと、
 - ② 消費地が高温でかつ天候が悪く、購買行動が鈍ったこと、
 - ③ 消費者の食料消費支出が低下しており、量販店でも生鮮品の販売額が大きく前年を割り込む状況が続いていること、
- 等から卸売価格が下がった。
- その後、後発産地の青森県の出荷が抑制され、品質も良かったことから、12月以降卸売価格が再び上昇した。

○京浜市場におけるふじの卸売数量、価格の推移

単位:t、円/kg、%

			10月				11月			
			上旬	中旬	下旬	月計	上旬	中旬	下旬	月計
全国	15年産	数量	238	272	1,389	1,899	2,363	2,983	2,907	8,253
		価格	372	365	295	314	252	217	209	224
	対前年比	数量	130	158	137	139	116	90	90	97
		価格	110	113	91	96	89	98	115	101
山形	15年産	数量	60	51	643	753	1,109	1,329	1,087	3,525
		価格	313	317	282	287	229	184	173	195
	対前年比	数量	227	361	325	316	169	103	103	118
		価格	127	127	93	98	85	91	112	97

資料:日園連調べ

○11月上旬の東京の天候

	平成15年	対平年比(差)
日照時間	19.9時間	43%
平均気温	17.2℃	+2.4℃
降水量	58.5mm	186%

4 経営安定対策の現状

(1) 13年産

うんしゅうみかん及びりんごの卸売価格は、消費者の低価格指向が消費全般に定着してきているため、低水準で推移した。

この結果、うんしゅうみかんは、計画的生産出荷に取り組んだにもかかわらず、全19府県で補てんが行われ、りんごについても出荷期間が比較的遅い2県で補てんが行われた。

(2) 14年産

14年産うんしゅうみかんは、ほぼ計画的な生産出荷量となったものの、果実の酸が高く、消費者が敬遠したこと、年末に出荷が集中し、1月に過剰な在庫の発生したこと等により、同じうら年であった12年産と比較すると、卸売価格が低い水準で推移し、12府県に補てんが行われた。

また、りんごについても、特定の時期への出荷の集中、晩生種の「ふじ」での実われ果や果肉の褐変の発生による品質の低下等から、卸売価格が低い水準で推移し、全5道県で補てんが行われた。

○ 平成13年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額

		当該年産 価 格	補 て ん 基準価格	交 付 額	1農家当 り交付額	備 考
		円/kg	円/kg	億円	千円	
み か ん	全 国			118	275	
	静 岡	161	205	16	296	対策加入県 19府県 補てん対象県 19府県
	和歌山	135	185	19	387	
	愛 媛	142	190	29	290	
	福 岡	129	155	5	326	
	佐 賀	125	155	11	303	
	長 崎	134	160	7	234	
り ん ご	熊 本	138	165	13	471	
	全 国			33	436	対策加入県
	青 森	204	245	32	483	5 道県
	山 形	216	205	—	—	補てん対象県
	長 野	262	250	—	—	2 道県

○ 平成14年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額

		当該年産 価 格	補 て ん 基準価格	交 付 額	1農家当 り交付額	備 考
		円/kg	円/kg	億円	千円	
み か ん	全 国			34	142	
	静 岡	186	205	10	187	対策加入県 19府県 補てん対象県 12府県
	和歌山	148	185	15	330	
	愛 媛	202	190	—	—	
	福 岡	153	155	0.3	20	
	佐 賀	140	155	4	133	
	長 崎	162	160	—	—	
り ん ご	熊 本	166	165	—	—	
	全 国			39	219	対策加入県
	青 森	206	245	32	469	5 道県
	山 形	174	205	1	67	補てん対象県
	長 野	238	250	5	55	5 道県

(3) 15年産

15年産うんしゅうみかんは、目標を下回る生産出荷量になると見込まれるものの、冷夏、11月の高温多雨により果実の品質が低下したこと等により、前年産と比較すると、卸売価格が低い水準で推移し、12県に補てんが行われる見込みである。

また、りんごについては、目標を下回る生産出荷量になると見込まれ、また、果実の品質も過去2年と比べ良いことから、前年産と比較すると、卸売価格が高い水準で推移し、全道県で補てんが行われない見込みである。

※対象出荷期間

みかん：3月まで

りんご：県により1月まで～5月まで

○ 平成15年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額（最大見込額：契約数量ベース）

		15年産 価 格	補 て ん 基準価格	交 付 額 (最大見込額) (注2)	1農家当たり 交 付 額 (最大見込額) (注3)	備 考
		円/kg	円/kg	億円	千円	
み か ん	全 国			55	157	
	静 岡	197	185	—	—	対策加入県 18県 補てん対象県 12県
	和歌山	145	160	12	174	
	愛 媛	153	175	14	141	
	福 岡	126	145	3	203	
	佐 賀	143	145	1	23	
	長 崎	154	150	—	—	
	熊 本	134	155	11	377	
り ん ご	全 国			—	—	対策加入県 6 道県
	青 森	248	230	—	—	補てん対象県 0 道県
	山 形	202	200	—	—	
	長 野	293	265	—	—	
	(注1)	236	225	—	—	

注1：長野県は、上段が8～10月、下段が11～2月の期間区分のものを記載。

注2：契約数量ベースで最大見込額を推定（青森については3月末までの価格）。